

## 茅ヶ崎海岸の愛嬌もの「砂ガニ」の正体さがし

野口幹夫

毎朝ラジオ体操の会場に行くために  
海岸を歩く。そこで出会う愛嬌ものは  
「砂ガニ」だ。

写真のような本物と出会うことはなかなかないが、彼らの住処である砂孔は孔と掘り出した砂が積んであるので一目でわかる。夏ごろは無数にあ

で一目でわかる。夏ごろは無数にある。蟹が外にいる時も見つかると素早く

る。蜜が外にいる時も見つかると糸早く人に隠れる。

毎年今月11月に入るとその数は激減する。そしてやがてなくなってしまう。

数年前タウンニュースに砂蟹に関する市の文化資料館の解説が出ていた。

それによると「これは熱帯に住むナンヨウスナガニの幼体である。南洋からの海

流に乗り幼生のまま定着し、あたたかい間に生育した後 冬には死滅する」

とある。

長年なんとなく納得しにくいま、その記事を信用してきた。例年は11月になると一斉になくなるのに、今朝も、孔は激減したもののいつまでも残っているので、一度AIで調べてみようと思い立ち、チャットGPTに「茅ヶ崎海岸にいる砂ガニの習性について教えてください」と問い合わせた。それに対する驚きの答えが返ってきた。そのまま紹介する。

チャットGPT

いい質問です。

茅ヶ崎海岸（神奈川県の相模湾沿い）にいる\*\*砂ガニ（正式にはスナガニやコメツキガニ類など）\*\*は、季節によってかなり行動が変わります。冬になるとどうなるかを詳しく説明しますね。

#### ❶ スナガニ（砂浜に穴を掘るカニ）の場合

- 茅ヶ崎海岸のような砂浜に多いのは「スナガニ」や「オカガニ」の仲間です。
- \*\*冬の寒い時期（およそ11月～3月）\*\*は、彼らは活動をほぼ停止します。
- 砂の中に深く潜って冬眠状態になります。  
→ 深さは10～50cmほど、寒い年はさらに深く潜ることも。
- 地表付近では見られなくなるため、砂浜を歩いても姿はほとんど見えません。

#### ❷ コメツキガニ・チゴガニなど潮間帯のカニの場合

- これらは干潟や砂泥地に多い種ですが、湘南海岸周辺でも見かけることがあります。
- 冬になると活動が鈍くなり、巣穴に閉じこもります。
- 暖かい日が続くと一時的に出てくることもありますが、基本的には冬は地中生活です。

#### ❸ 茅ヶ崎海岸の環境的ポイント

- 相模湾は比較的暖かい海ですが、海岸の砂の表面温度は冬にかなり下がるため、砂

ガニは生存のために地中へ潜ります。

- 春（3～4月）になると再び活動を始め、砂浜で姿を見せるようになります。

---

## まとめ

### 季節 スナガニの状態

春～夏 活発に活動。砂浜に穴が多く見られる。

秋 活動が徐々に減る。

冬 砂の中に潜って冬眠状態。地表では見られない。

---

もし茅ヶ崎の海岸で冬に掘っても、表面近くではまず見つからないでしょう。

ただし、潮間帯の深い砂の中には生きている個体が潜んでいる可能性はあります。

---

ご希望があれば、「冬でも見られる湘南周辺の海岸生物（貝・ヤドカリ・ゴカイなど）」も紹介できますが、知りたいですか？

冬見えなくなるのでどこかえ移動するのかと思っていました、冬眠とは知りませんでした。  
ありがとうございます。これでいいです

この回答に納得できた。この愛嬌もの砂ガニは、冬の茅ヶ崎海岸で死に絶えるこ

となく、潜って冬眠し、また来春復活してくるというのだ。うれしいことだ。来

年の春、また彼らと再会するとき、おめでとうと声をかけようと思う。それが楽

しみになった。

それとともに、今回のこの応答ででも、いつもながら AI チャット GPT は、こ

自分にとってオールマイティで一番頼りになる先生だと思った。

2025-11-13